

建コン協北陸支部活動報告（議事録）

件名	富山県土木部との意見交換会
日時	令和5年2月22日（水） 10:00～11:30
会場	富山県防災危機管理センター 研修室3-A
出席者	○富山県土木部 ：金谷土木部次長、大木管理課長、荒木管理課係長、 若林建設技術企画課主幹、永原建設技術企画課副主幹、牧田建設技術企画課主任、 埜村道路課主幹、小倉河川課主幹、山下砂防課主幹、竹島港湾課主幹、 鹿熊都市計画課主幹 ○協会北陸支部富山事務所 ：渡辺副支部長、渡邊運営委員長、瀬川運営委員、田中対外活動部会委員、 柴田富山地域委員長、栄富山地域委員、竹腰富山地域委員、吉田富山地域委員、 泉富山地域委員、鍋谷富山委員、大蔵広報委員、坂原広報委員

◆意見交換

1. 令和4年度 委託業務の発注状況について

- ・令和4年度の委託業務の執行状況（発注件数、発注金額、前年度との対比など）について

【回答】

- ・令和4年度の委託業務（測量、土木コンサル、補償、地質調査の4部門）の発注状況（4～12月）は、551件（対前年度比3%減）で、当初金額（契約ベース）は、約35億円（前年度比2%減）。
- ・土木コンサルは、277件（前年度比ほぼ同数）、金額は22億7千万円（前年度比3%減）であり、全体的に前年度と同程度を確保。

2. 令和5年度 土木関連予算の動向について

- ・令和5年度土木関連予算の動向および令和の公共インフラ・ニューディール政策に基づいた主な取り組み事業、重点施策などについて

【回答】

- ・令和5年度の土木関連の予算（案）は、令和4年度11月補正等を含め、838億円（前年度比99.7%）と昨年度と同程度を確保。
- ・主要県単事業は、204億円（前年度比11.5%増）を計上。
- ・主な事業としては、河川の改修、海岸保全施設の整備や海岸・土砂災害対策、また橋梁・トンネルなどのインフラ老朽化対策を計画的かつ継続的に推進。
- ・幹線道路、通学路の消雪施設の整備、港湾の機能強化など物流と生活を支える社会資本整備を推進し、ハード・ソフトの両面から県として強靱化を推進。

3. 地域の担い手確保に向けた地域コンサルタントの活用拡大と育成について

- ・当協会は、富山県土木部と「災害時における応急対策業務に関する協定」を締結
- ・地域コンサルタントの活用を要望。

【回答】

- ・原則富山県内を拠点とする地域コンサルを考慮。
- ・従来全国的な企業のみを指名していた業務も地域のコンサルタントを指名に加えるなどの取組みを実施。

4. 担い手確保・育成への取り組みについて

- ・これまで以上の担い手確保・育成に係る活動を推進するため、当協会の更なる活用を要望。

【回答】

- ・今年度も県内高校・大学へのPR誌の配布を行い、県内大学生を対象とした土木現場見学会も実施。
- ・新しい試みとして、若者に建設業を身近に感じてもらえるよう、高校生を対象としたインフラコンテストを開催。
- ・令和5年度には建設技術の体験ができるようなイベント開催を計画しており、当初予算(案)に計上見込み。
- ・近年コロナの影響で参加できていない県立大学の学園祭等へのイベントの開催についても貴協会に協力をお願いする。
- ・県では、とやま建設業団体支援事業費補助金を令和4年度に新設したので活用してほしい。

5. 労働環境改善への取り組みについて

- ・建設産業界全体の働き方改革と生産性向上のため、労働環境改善に向けた取り組みを要望。

【回答】

- ・労働環境の改善の取組は、担い手の確保の観点から、県としても非常に重要であると認識。
- ・業務の平準化、適切な履行期限の設定は、今後も継続し対応。
- ・ウィークリースタンスは、土木部各所属の部署に文書にて通知しており今後も継続。

6. ポストコロナを見据えた業務の効率化について

- ・ポストコロナを見据えて業務の効率化等に向けた富山県の取組み、WEB会議の実施状況、今後のご方針等について。

【回答】

- ・令和2年度に各土木事務所にタブレット端末を配布し、WEB会議に対する環境整備を実施。
- ・図面・データやWEB会議時の資料の閲覧性向上のためデュアルディスプレイを推奨しており、業務の効率化も考え、機器の配備や環境整備を行い、引き続き積極的なWEB会議の活用を推進。

7. 多様な入札契約制度の導入・運用について

- ・改正品確法等に基づいた、業務内容・業務規模等を考慮の上、プロポーザル方式・総合評価落札方式等の多様な入札契約導入への方針など新契約方式の試行を要望。

【回答】

- ・建築分野などの設計で高い技術力を要する業務、課題に対する提案を求める業務ではプロポーザル方式による選定を実施。
- ・委託業務では、総合評価方式や地域コンサルタントに限定した新契約方式の試行を北陸整備局の事例や他県の導入状況、実績を参考に検討。

8. 富山県設計業務等成績評定について

- ・「設計業務等成績評定要領」の運用方針、ならびに過去3ヶ年の業務評定点の平均点、最高点および最低点の公表と今後の活用方針について

【回答】

- ・成績評定は、公正かつ適切な運用、かつ品質確保の面から業者の選定時において活用。
- ・成績評定の公表は、県のホームページに掲載することを検討。

9. 品質の確保・向上に向けた取り組みについて

- ・合同現地踏査の実施（試行）について要望。

【回答】

- ・県土木部では、平成 19 年度より工事連携会議の試行を実施。
- ・合同現地踏査の実施は、設計段階での受発注者間の情報共有に重要。整備局や他県の動向も踏まえて検討。

10. DX 推進の環境整備について

- ・DX 推進に向けた富山県の取組み、今後の方針等について。

【回答】

- ・DX の推進は県としても重要事項として捉えている。
- ・委託業務では、令和 4 年度より受注者が希望した場合において情報共有システムの利用を認めている。
- ・更なる業務効率の向上、働き方改革に繋がる DX を推進。
- ・業務効率化のため入札参加資格申請書のひな型が国より示されているが、課題もあり、県では利用を検討中。市町村には情報提供していきたい。

11. 生産性向上に向けた ICT 技術（BIM/CIM）の導入・活用推進について

- ・県における今後の ICT 技術活用の導入・運用及び生産性向上へ向けた取り組みについて。

【回答】

- ・工事受注者向けではあるが、ICT 測量機器などの操作体験や現場体験会を継続的に開催。
- ・内部職員向けの研修では、継続的に CAD 製図研修を実施。貴協会等の協力を得ながら BIM/CIM などの基本的な内容の研修を予定。
- ・今後の BIM/CIM 導入活用については、各コンサルの対応状況・実績を把握し、他県の取組状況も参考にしながら検討。

12. 適正な人件費・経費等の確保について

- ・点検作業に従事する技術者等の安全確保の観点から、現場状況に見合った点検資材・保全施設用の費用の確保について

【回答】

- ・令和 3 年度に、橋梁規模に応じた標準的な歩掛りについて、皆様に見積徴収させていただいた。
- ・標準以外の大規模橋梁や特殊橋梁などについては、各土木から個別に見積徴収させていただいている。
- ・点検に際し、積算内容にそぐわない状況が確認された場合は、ご提案いただいたアンケートという形ではなく、個別にヒアリングさせていただいた方が良いと考える。また、協議書→指示書→承諾書による変更対応も可能ですので、適切にご活用いただきたい。

13. 行政補助（発注者支援）業務の今後の方針について

- ・県としての行政補助業務の方針について

【回答】

- ・令和 4 年度から発注支援業務を試行で発注。
- ・令和 5 年度以降も継続的に発注予定。